

388) 親友よ

東の空が白み初めて 一羽の鳩が西へ飛んでく  
まるでお前が天国へゆく 道案内をするかのように  
なぜにお前は俺を残して たった一人で逝ってしまうの  
かけがえのない家族をおいて なぜ足早に旅立ってゆく

初冬の街をすすり泣くよに 落ち葉の風が通りすぎてく  
まるでお前の死を悲しんで 弔いの歌奏でるように  
あれもやりたいこれもやりたい 仕事の夢を語ってくれた  
すべてのものをこの世に忘れ なぜにお前はそんなに急ぐ

寒さの中で白い仔犬が 鼻を鳴らして追いかけてくる  
まるでお前がほろ酔い酒で 俺にからんでいるかのように  
俺たちふたり幾歳月を 一緒に生きて夢を見てきた  
いま人生をふりかえるなら たった一人の親友だった

年をとったら俺と一緒に 海を見おろす丘に暮らして  
釣りをしながら酒でも呑んで ゆっくりやろうと約束したぜ  
涙ににじむお前の写真 笑ってるのにやけに悲しい  
親友よ永遠なる眠りについて 楽しい夢を見続けてくれ

親友よしばらく一人で眠れ 俺が行くまで静かに眠れ  
俺は生きるよお前の分も 酒を楽しみ家族を愛し  
仕事をするよ生命のかぎり 俺は生きるよお前の分も  
親友よしばらく一人で眠れ 俺が行くまで静かに眠れ